2019 年度海洋教育パイオニアスクールプログラム
（地域展開部門）

実践記録集

北海道厚岸翔洋高等学校

目次

2019 年度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」成果発表会資料 …… 1

2019 年度年間学習指導計画 水産・水産海洋基礎 …… 8

水産・漁業 …… 10

水産・総合実習 …… 13

水産・課題研究 …… 15

水産・カキ学 …… 19

2019年度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」全道成果発表会

北海道厚岸翔洋高等学校

茜　碧空　・　長崎　史紋

私たちのまち，厚岸町は･･･

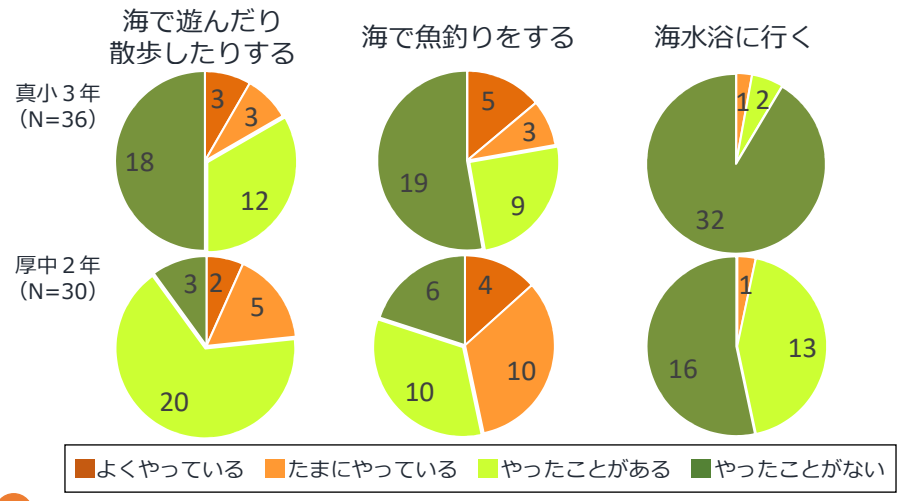
- 人口約１万人
- 天然の良港，厚岸湾
- 就労者の５人に１人が漁業
- 全国的に知られた水産物

海とともに生きる，漁業のまち

私たちのまち，厚岸町は･･･

海とともに生きる，漁業のまち

厚岸町の子どもたちは･･･



意外にもあまり海に親しんでいない

私たちの活動目標（１年目）

町内の小学生・中学生と一緒に，
海に親しむ活動を行う

⇩

地元の海に興味をもってもらおう

厚岸中学校２年生との活動

整列してあいさつ

漁具の説明

地引網による生物採集を行った

・安全性が高いので，子どもたちが操業に参加できる

・多くの生物が採取でき，身近な海洋環境の理解に役立つ

厚岸中学校２年生との活動

高校生が網を入れる

高校生が引き方を指導

実施日：令和元年６月４日

場　所：厚岸役場裏の干潟

水　深：０－１.０ｍ

厚岸中学校２年生との活動

一緒に採れた魚類の仕分け

採れた魚類の説明

採集された魚類：

ウグイ，アメマス，チカ，ギスカジカ，イソバテング，ムロランギンポ，タケギンポ，トウガレイ，ヌマガレイ，クロガレイ，ヘビハゼ

厚岸中学校２年生との活動

みんな積極的に魚に触る

最後は海に返す

中学生の感想（抜粋）

・浅いから捕れないと思ったら，たくさん捕れて驚いた

・厚岸に住んでいるけど，魚を捕るのは初めてだった

・干潟が稚魚やエビ類の住み家になっていることが分かった

真龍小学校３年生との活動

小学生たちと対面

網を引く場所まで案内

中学生との活動の反省から

・もっと積極的に子どもたちに関わる，優しくする

・網を待っている時間の有効活用

真龍小学校３年生との活動

一緒に網を引く

揚がってきた網に興味津々

実施日：令和元年７月３日

場　所：厚岸役場裏の干潟

水　深：０－１.０ｍ

真龍小学校３年生との活動

くまでの使い方を説明

一緒にアサリを掘る

２班に分けて，半分はアサリ掘りを体験

・アサリ以外にもゴカイ類やアナジャコが捕れた

・アサリは観察後に海に戻した

真龍小学校３年生との活動

捕れた魚を仕分け

獲れた魚の説明

小学生の感想（抜粋）

・おもしろかったのでまたやりたいし，作文にも書きたい
・海にはたくさんの生きものがいることがわかった
・楽しかったので，海がこわくなくなった

まとめと次年度に向けて

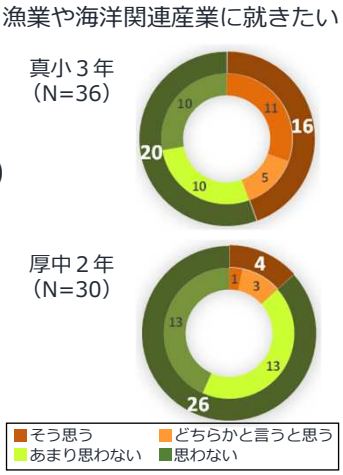
１年目：海に興味をもつきっかけ作り

⇩

２年目：海の仕事を知ってもらう（予定）

・小学生・中学生と活動する中で，地元の海の魅力を再確認
・海に生きる者の使命感

漁業や海洋関連産業に就きたい



地域を支える，漁業や海洋関連産業に興味をもつ子どもたちを増やしたい

2019 年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科	教科・科目	水産・水産海洋基礎	教科担任	竹渕　繭

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	「水産海洋基礎」文部科学省
1	必修	3	105	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1　水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 2　水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し，水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3　持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び，地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	定期考査による.
思考・判断・表現	30	定期考査による.
主体的に学習に取り組む態度	30	授業中の観察による.

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	＜座学＞　＜実習＞		4		10	水産物の加工		12	
	第１章　海のあらまし　オリエンテーション					第３節　とる漁業			
5	海洋実習		12		11	第４節　つくり育てる漁業　水産物の加工		12	
						定期考査			
6	定期考査　水産・海洋生物の採集		10		12	第５節　漁業・資源管理		10	
	水産・海洋生物の飼育								
7	第２章　水産業と海洋関連産業のあらまし　水産物の加工		5		1	第６節　水産物の流通　海洋実習		10	
	第１節　船と暮らし								
8	第２節　水産業の歴史と現状		2		2	第７節　水産物の加工		9	
						定期考査			
9	定期考査　体験乗船		16		3	第８節　海洋関連産業		3	
	計		49			計		56	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	普通科	教科・科目	水産・水産海洋基礎	教科担任	鶴岡　理

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	「水産海洋基礎」文部科学省
1	必修	1	35	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，漁業に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1　漁業について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 2　漁業に関する課題を発見し，漁業生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3　漁業における生産性の向上を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートと制作物による.
思考・判断・表現	30	実習ノートと授業中の観察による.
主体的に学習に取り組む態度	30	授業中の観察による.

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	オリエンテーション		2		10				
5	海洋実習		8		11				
6	水産・海洋生物の採集		6		12				
	水産・海洋生物の飼育								
7	水産物の加工		2		1				
8					2				
9	体験乗船		17		3				
	計		35			計		0	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・漁業	教科担任	鶴岡　理

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	「漁業」文部科学省
1	必修	2	70	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，漁業に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1　漁業について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 2　漁業に関する課題を発見し，漁業生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3　漁業における生産性の向上を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	定期考査による.
思考・判断・表現	30	定期考査による.
主体的に学習に取り組む態度	30	授業中の観察による.

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	第１章　漁業と水産生物		5		10	第３節　漁場と漁場調査		10	
	第１節　漁業の意義と沿革								
5			5		11	定期考査		10	
6	定期考査		10		12			5	
7	第2節　海洋環境と生物生産		5		1	第４節　海の環境保全		2	
8			5		2	定期考査		3	
9	定期考査		5		3			5	
	計		35			計		35	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・漁業	教科担任	阪本　貴亮

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	「漁業」文部科学省
2	必修	2	70	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，漁業に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 １　漁業について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 ２　漁業に関する課題を発見し，漁業生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ３　漁業における生産性の向上を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	定期考査による.
思考・判断・表現	30	定期考査による.
主体的に学習に取り組む態度	30	授業中の観察による.

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	第１章　漁業と水産生物		5		10	第２章　水産資源と漁業管理		10	
	第３節　漁場と漁場調査					第１節　水産資源			
5			5		11	定期考査		10	
6	定期考査		10		12			5	
7	第４節　海の環境保全		5		1	第2節　漁業管理		2	
8			5		2	定期考査		3	
9	定期考査		5		3			5	
	計		35			計		35	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・漁業	教科担任	鶴岡　理

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	「漁業」文部科学省
3	必修	2	60	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，漁業に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1　漁業について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 2　漁業に関する課題を発見し，漁業生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3　漁業における生産性の向上を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	定期考査による.
思考・判断・表現	30	定期考査による.
主体的に学習に取り組む態度	30	授業中の観察による.

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4					10			10	
5					11	第２節主な漁業と資源増殖		10	
						定期考査			
6	第3章漁業の技術		10		12			5	
	第１節漁具と漁法								
7	定期考査		5		1	定期考査		5	
8			5		2				
9	定期考査		10		3				
	計		30			計		30	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・総合実習	教科担任	鶴岡　理

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
2	必修	2	70	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，水産業や海洋関連産業において必要となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 １　水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 ２　水産や海洋の各分野に関する課題を発見し，水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ３　水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	漁業実習・栽培実習		2		10	漁業実習・栽培実習		8	
5	漁業実習・栽培実習		8		11	工学実習		8	
6	漁業実習・栽培実習		8		12	工学実習		6	
7	漁業実習・栽培実習		4		1	工学実習		6	
8	潜水実習		4		2	漁業実習		6	
9	潜水実習		8		3	漁業実習		2	
	計		34			計		36	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・総合実習	教科担任	島田　直

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
3	必修	7	210	補助教材	なし

指　導　目　標	水産の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，水産業や海洋関連産業において必要となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 １　水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 ２　水産や海洋の各分野に関する課題を発見し，水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ３　水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び，水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	長期乗船実習		120		10	小型船舶実習		6	
5	長期乗船実習		60		11	小型船舶実習		2	
6	小型船舶実習		6		12				
7	小型船舶実習		4		1				
8	小型船舶実習		6		2				
9	小型船舶実習		6		3				
	計		202			計		8	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科	教科・科目	水産・課題研究（総学）	教科担任	小坂　実顕

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
2	必修	1	35	補助教材	なし

指　導　目　標	1　水産や海洋に関する課題を自ら設定し、専門的知識や技術の習得に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けさせる。また、発表会の場においても意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。 2　課題の設定、解決に関して創造的に思考し、判断・表現の能力を身に付けさせる。 3　課題を解決する上で必要とされる問題解決の技術、能力を身に付けさせる。 4　課題の研究を通して得られた情報や、理解した知識を的確にまとめる能力を身に付けさせる。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	出航壮行式		4		10	見学旅行事前学習		2	
	進路ガイダンス								
5	人間関係づくり		2		11	進路ガイダンス		2	
6	交通安全教室		8		12	進路ガイダンス		2	
	３校交流会								
7	学校祭準備		5		1	進路ガイダンス		2	
8	進路ガイダンス		2		2	進路ガイダンス		2	
9	進路ガイダンス		2		3	進路ガイダンス		2	
	計		23			計		12	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科	教科・科目	水産・課題研究（総学）	教科担任	島田　直

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
3	必修	1	30	補助教材	なし

指　導　目　標	1　水産や海洋に関する課題を自ら設定し、専門的知識や技術の習得に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けさせる。また、発表会の場においても意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。 2　課題の設定、解決に関して創造的に思考し、判断・表現の能力を身に付けさせる。 3　課題を解決する上で必要とされる問題解決の技術、能力を身に付けさせる。 4　課題の研究を通して得られた情報や、理解した知識を的確にまとめる能力を身に付けさせる。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	出航壮行式		2		10	進路ガイダンス		4	
	進路ガイダンス		2						
5					11				
6	プレドライバーズセミナー		6		12				
	３校交流会		2						
7	学校祭準備		6		1				
8	進路ガイダンス		4		2				
9	進路ガイダンス		4		3				
	計		26			計		4	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・課題研究（SP）	教科担任	島田　直

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
3	必修	3	90	補助教材	なし

指　導　目　標	1　水産や海洋に関する課題を自ら設定し、専門的知識や技術の習得に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けさせる。また、発表会の場においても意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。 2　課題の設定、解決に関して創造的に思考し、判断・表現の能力を身に付けさせる。 3　課題を解決する上で必要とされる問題解決の技術、能力を身に付けさせる。 4　課題の研究を通して得られた情報や、理解した知識を的確にまとめる能力を身に付けさせる。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4					10	発表会		10	
5					11				
6	オリエンテーション，班決め		20		12				
	テーマ決定								
7	調査，研究，実験，作品制作		20		1				
8	調査，研究，実験，作品制作		20		2				
9	調査，研究，実験，作品制作		20		3				
	計		80			計		10	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・調理師	教科・科目	水産・課題研究（SP）	教科担任	島田　直

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
3	必修	2	60	補助教材	なし

指　導　目　標	1　水産や海洋に関する課題を自ら設定し、専門的知識や技術の習得に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けさせる。また、発表会の場においても意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。 2　課題の設定、解決に関して創造的に思考し、判断・表現の能力を身に付けさせる。 3　課題を解決する上で必要とされる問題解決の技術、能力を身に付けさせる。 4　課題の研究を通して得られた情報や、理解した知識を的確にまとめる能力を身に付けさせる。
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノートおよび授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施		実施
4	オリエンテーション，班決め		5		10	発表会		5	
	テーマ決定								
5	調査，研究，実験，作品制作		10		11				
6	調査，研究，実験，作品制作		10		12				
7	調査，研究，実験，作品制作		10		1				
8	調査，研究，実験，作品制作		10		2				
9	調査，研究，実験，作品制作		10		3				
	計		55			計		5	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・カキ学	教科担任	小坂　実顕

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
2	必修	1	35	補助教材	なし

指　導　目　標	カキ養殖に関する知識や技能を身に付けさせること.
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノート，制作物，および授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4	カキ養殖実習		2		10	カキ養殖実習		4	
5			4		11			4	
6			4		12	カキ検定の勉強		2	
7			2		1			2	
8			2		2			4	
9			4		3			1	
	計		18			計		17	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞

2019年度年間学習指導計画

	校長	教頭	教務
4月			
10月			
3月			

学科・コース	海洋資源科・生産技術	教科・科目	水産・カキ学	教科担任	島田　直

学　年	必修／選択	単　位	授業時数	使用教科書	なし
3	必修	1	30	補助教材	認定試験問題集

指　導　目　標	カキ養殖に関する知識や技能を身に付けさせること.
指導上の留意点	・広く浅く水産科に関わる内容を扱い，水産科での学習の楽しさを伝える ・教科書の内容に留まらず，最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・座学と実習とを併せて３単位分の授業を行う

評　価　の　観　点

評　価　の　割　合（%）		評　価　の　方　法
知識・技能	40	実習ノート，制作物，および授業の観察による
思考・判断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による
主体的に学習に取り組む態度	30	授業の観察による

指　導　計　画

前　期					後　期				
月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施	月	授業内容 予定	授業内容 実施	配当	実施
4					10	カキ養殖実習		4	
5					11	カキ養殖実習		4	
6	カキ養殖実習		4		12	カキ検定の勉強		4	
7	カキ養殖実習		4		1			2	
8	カキ養殖実習		4		2				
9	カキ養殖実習		4		3				
	計		16			計		14	

実施状況の記録（反省・改善点等）

前期		㊞
後期		㊞